

## 講演要旨

今日我が国社会が健全な子育てを困難にし、少子化社会に突き進んでいる大きな原因は、「母性ほど大切なものはない」ということを認めない、子の教育に第一義的責任を有する父母など保護者と彼等を取り巻く今日の我が国社会の価値観の混乱にあります。

クロークに「物」を一時預けするように子を預け、抱っこや母子同床を通して母性を発達させようとしないう結果、いわば「発達障害母」又は「未熟母」と言わざるを得なくなっている母親と、「子供は私のようになりたくないと思っている」と感じ、子供に父親としてではなく友達として対している「虚弱父性」の父親が、今日子育ての現場に蔓延してしまっています。

このようになってしまった理由は、70年前のアメリカを中心とする占領軍（GHQ）による、日本人に戦争犯罪者意識を刷り込み、日本の歴史、伝統、文化を否定破壊し、日本人の矜持と自我同一性（アイデンティティー）を失わせるための宣伝工作による害毒が、濃い血中濃度として現在も日本人の中に残っている結果であると言わざるを得ないのです。

それにストップをかけるには、日本の歴史、伝統、文化を知って、日本人としての矜持とアイデンティティーを回復すること、すなわち「日本人として生まれてよかった」という自信と誇りを社会が取り戻すことしかないのです。

この自信と誇りが回復されれば、しっかりした育児方針を立てることが可能となり、「子供は誰のものか」「何のために子どもを育てるのか」「どんな大人になって欲しいか」という問いに日々応えながら健全な育児を導いていくことができるようになるのです。